

## 令和7年度第1回 滝川市総合教育会議 議事録

- 開催日時 令和8年3月24日（火）15：30～16：30
- 開催場所 市役所5階 第一応接室
- 出席者 市長 前田 康吉  
教育長 田中 嘉樹  
職務代理者 春田 淳一  
教育委員 木曾 旬映  
教育委員 種田 貴志子  
教育委員 上野 恭敬

### 1. 開 会

#### （小畑総務部次長）

定刻となりましたので、これより令和7年度第1回滝川市総合教育会議を開催いたします。

私は事務局の 総務部次長 小畑 です。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、公開形式の会議であり、北海道新聞社様、空知新聞社様も取材に来られています。議事録についても後日公開することとなりますことを申し添えいたします。

開催にあたり、市長よりご挨拶を申し上げます。

### 2. 市長挨拶

#### （前田市長）

令和7年度第1回総合教育会議にご出席いただきましてまことにありがとうございます。

教育委員の皆様方におかれましては、日頃から滝川市の教育行政にご理解のもと、様々な形でお力添えをいただいていることに改めて感謝申し上げます。本日は先ほど申し上げました、「第2期後期 滝川市小・中学校適正配置計画（案）について」説明をさせていただきます。皆様方からのそれぞれご意見を賜りたいと考えております。

委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきより良い計画となるよう、お願い申し上げます。簡単ではございますが、開催にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(小畑総務部次長)

このあとの議事につきましては、市長が進行してまいりますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 議 題

#### ・第2期後期滝川市小・中学校適正配置計画(案)について

(市 長)

それでは、議題に入りたいと思います。資料1「第2期後期 滝川市小・中学校適正配置計画(案)」について説明いただき、そのうえで、意見交換の場としていきたいと思っております。それでは、教育委員会から説明をお願いします。

(教育長)

改めて滝川市小・中学校適正配置計画を市長部局と共有させていただきたいと思っております。

全国的な少子化の中で、滝川市においても残念ながら児童生徒数が右肩下がりで減少しています。とは言いましても、将来の社会を支えていくのは今の子どもたちであります。その子どもたちを自立した人材として、どう育成していくかというところで、教育環境をどう考えていくかということが我々の使命でありますけど、1つは学校という場合は、子どもたちが一日の大半を過ごす場ということでもあります。

学びの場だけでなく、集団生活や人間関係を築いていく場でもあります。そういう多様な人間関係の中で社会性や協調性、あるいは多様な意見に出会うということが大事だなと思っております。そうすると、一定の集団規模が必要となると考えています。

滝川市内には6校の小学校がございます。同じ市内でも学校規模が大分差がありまして、1校は管内で最大規模であって、一方ではいわゆる複式学級が避けられない学校もあります。そういう中でどのような教育環境が良いのかということで、これは小規模がダメだということではありません。小規模校は、小規模校のメリットがあります。我々が考えるのは、より良い教育環境ということで考えまして、適正規模というものを1学年2～3学級というふうに言って、これらを進めるためには統廃合で進めるということが基本的な考えであります。

また、学校施設の老朽化が進んでいる中で、市教委の立場としては大規模改修なり、計画的な改築というのがありますので、その辺も視野に入れながら、市長部局と十分に共有しながら進めていかなければならないということでもあります。そういうことも踏まえて、今回資料1を説明しますが、そういったことを踏まえてのつくりとなって

いますので、前段としてご説明しておきます。あとは担当から説明させていただきます。

(新しい学校づくり推進課、**資料1**について説明)

新しい学校づくり推進課の山口です。

私の方から「第2期後期 滝川市適正配置計画(案)」についてご説明させていただきます。

1 ページ目をお開き下さい。滝川市の人口は今後も減少を続け、児童生徒数についても現在の2,161人から25年後の令和32年には、現在のおよそ半分の1,022人まで減少することが見込まれます。

2 ページ目をお開きください。今後も児童生徒数が減少すると予想される中、適正規模の考え方として教育環境を維持するため教育指導・学校運営・人間関係の3つの視点を重要と考え、最大限の効果を発揮する学校規模として小学校では、12学級～18学級。中学校では、6学級～18学級。を確保することが望ましいと考えております。

3 ページ目をお開き下さい。適正規模を確保するために、小学校の方向性については、令和13年度に老朽化の著しい滝川第一小学校を建替の後、供用開始に併せて西・江部乙小学校の統合を進め、滝川第二小学校は、児童数の推移を見極めながら令和18年度以降の統合を予定しております。

中学校の方向性については、中学校との通学区域を一致させるため開西中学校を江陵中学校に統合を進めていきます。

4 ページ目に移りまして、今回の適正配置計画の改定にあたり、PTA役員や在校生保護者等との懇談会を合計21回実施し、179名の参加により皆さんからたくさんのご意見・ご質問が寄せられました。

5 ページ目をお開き下さい。5ページからは11ページまでは統合対象校校区の在校生及び未就学児保護者1,012人を対象として実施したアンケート結果となります。

6 ページ目では、令和13年度、滝川第一に西・江部乙小学校の統合について

7 ページ目では、滝川第二小学校の令和18年度以降の統合時期について

8 ページ目では、令和18年度、江陵中学校に開西中学校の統合について

9 ページ目では、統合に関する不安・負担・課題について

10 ページ目では、計画に対するご意見・要望を伺っております。

11 ページ目をお開き下さい。アンケート結果から、将来の教育環境維持に向けた学校統合に関し多くの保護者から賛成またはやむを得ないとの回答をいただきました。

一方でスクールバス利用により通学の安全性や運用方法、江陵中学校を利用するためには学校施設の整備を求める声があることを伺っております。さらに、懇談会でも同様な意見が多かったことも受け止めているところであります。

12 ページ目に移りまして、小規模特認校としての存続を求めるご意見が寄せられたことから「小規模特認校制度」について改めて調査、導入の可能性のある再検討を行い、市民説明会を実施しております。

2の小規模特認校とは、通学区域を問わず市内全域から就学を認める「学校選択制の一形態である特認校制度」のうち、小規模の良さや地域の特色ある教育を行うことで「統廃合を避けるための対策」の一つとして運用されています。

制度を継続するためには「安定した就学希望者の確保」と「地域全体による継続的な支援」が不可欠であること。多くの自治体では、通学は「保護者送迎」が原則であり、特別支援学級は対象外としている事例が多く見られます。

13 ページ目をお開き下さい。3の全国・道内における特認校制度の導入状況についてご説明いたします。

全国では、715校、北海道内では28市町村52校が本制度を導入しておりますが、記載内容にあるように、制度導入による児童数の変化には地域差があり、安定的な児童数の確保は容易ではないことがわかります。

14 ページ目に移りまして、これまでの説明のとおり、制度概要や導入による効果には地域差があることから本市での導入を想定した場合、いくつかの課題があり、今後の児童数の見通しや地理的な条件を考慮すると、現時点で「特認校制度」の導入により、大幅な児童数の増加が期待できず「複式学級を解消」し、「教育環境の一層の改善は極めて困難」であることを説明しております。

15 ページ目をお開き下さい。5の市民説明会の意見の中で、江部乙小学校を残していきたい意見として

1つめは、学校は地域コミュニティの核であり、合併の歴史背景からも存続を望む意見。

2つめは、市街地による画一的な統合ではなく、農村部小規模特認校として存続させ、選択肢の一つとして残すことを求める意見。

3つめは、結論ありきの議論ではなく、住民と真摯に向き合うことを求める意見。

4つめは、存続を望む一方で、高齢化により地域支援の継続が難しい現実も示されました。そのため、統合する場合は、江部乙の強みである「体験学習」の継続を求める意見がありました。

16 ページ目に移りまして、一方で在校生及び未就学児童を持つ保護者などの意見として

1 つめは、クラス替えが可能な規模の確保や、部活動・友人関係の選択肢が増えることは、子どもの成長に重要であり、実際に統合を経験した親子からも「選択肢が増えて良かった」と統合に賛成の意見。

2 つめは、スクールバス導入による登下校の安心感。また、統合先の学校で江部乙の歴史や行事を共有することで、新たな形での地域活性化につなげられるという前向きな意見。

3 つめは、特認校として存続させた場合、保護者から共働き世帯が多く継続的な支援は困難と懸念する意見。また、地域側に対し協力体制についての問いかけについても、現時点では具体的な協力体制の提案は得られませんでした。

両者の意見から制度の導入・運営も含めて、子どもの教育環境を考えた保護者と地域振興の観点から、学校存続を望む意見に隔たりを感じる状況でありました。

17 ページ目に移りまして、計画案について市民説明会やアンケートを通じ、学校を『地域コミュニティの核』として存続を望むご意見もいただきましたが、将来を担う子どもたちの教育環境を最優先に考え、適正配置計画の改訂案については令和 13 年度に向け小学校は、滝川第一小学校に西小学校、江部乙小学校を令和 13 年度の「統合」を進めていきます。

中学校は、江陵中学校に開西中学校を令和 13 年度の「統合」を進めていきます。

滝川第二小学校の統合時期については、保護者から令和 13 年度の早期統合を望む意見をいただきましたが、一定規模による教育活動が確保されている点を踏まえ、計画（案）どおり『令和 18 年度を目途』に統合を進めていきます。

滝川第三・東小学校及び明苑中学校については、計画（案）のとおり令和 13 年度以降も存続とします。

第 2 期後期 滝川市小・中学校適正配置計画（案）については、3 月 25 日から 4 月 15 日の意見募集を経た後に成案といたします。

私からの説明は以上です。

## （市長）

ありがとうございました。教育委員会より、令和 13 年度に向けた小・中学校の適正配置計画案について説明がありました。私もこの計画に賛同している立場です。小規模でもそれぞれの特色があれば良い点があるのは理解しておりますが、保護者の皆さま

まのご希望もありますように、一定規模の中で様々な人間関係を築いて、社会性を習得するという意味からも、やはりある程度の規模は必要ではないかということが私が賛同するところをごさいます、ぜひともこのような形での統合をやっていければなと思っております。

一部の江部乙の強い思いのある方から特認校についての話もございました。確かに小規模校も良いのですが、地域としてそれを必ず担保してやっていただけるのかということがないということが不安でございまして、一部の強い思いがあるのですが、あまりにも思いが強いと、保護者との間で地域が分断されてしまうこともありますから、そんなことはないように是非やってほしいと思います。またアンケートや署名活動をするという話もありますが、なるべくはそういうのはないようにとも思いますが、それは個人の思いですから、ご理解をさせていただくのですが、ぜひとも保護者の皆さまのご意向を叶えていただきたいと思います。

地域づくりと教育というのは一緒ではないと思っております。同列に考えることではなくて、教育があってその後に地域づくりがあるんだという風にならなければいけないと思っておりますのでご理解いただきたいと思います。

次に施設や通学に対する不安もありました。施設については非常に今まで滝川市で改修に取り組めていなくて、ご不便をおかけしたことは申し訳なく思っていますが、それだけ財政が厳しい状況でありました。そういう意味では今回かなり財政的にも少し余裕が出来てきたので、施設の改修等に着手しようと思っておりました。それに併せて駅周辺の整備をして駅の賑わいづくりも一緒にとっていたのですが、残念ながらそこに見えます市立病院の、全国自治体病院の赤字ということでご存じだと思いますが、そういうことで、どれかを選ばなければならないということになりました。これからの時代はあれもこれもではなくて、どれかを選ばなければならない時代だと思っております。そこで苦渋の決断ではありましたが、駅周辺整備を一旦白紙にして、ホール機能とは切り離して駅の賑わいを取り戻していく、そしてホール機能は別の形で実現させていく。

そして学校の施設の改修を担保する。必ず改修していくんだということを担保する財政運営に切り替えていきます。新しい計画は実行するための財政的な裏付けは担保されているということをご理解いただければと思っております。また、中東問題で様々な懸念が生まれてきて、いわゆる建築費の高騰、学校改修費用も当初よりもかかってくると思っておりますが、ある程度の余裕を持って10年間の財政シミュレーションでかなり余裕を持ってやっているのです、江陵中学校の改修までは必ずできあがる。その後について

てはまだ定かではない計画でございますので、今回改訂する第2期後期の統合計画における施設についてはなんの問題も無く進められるという裏付けでご理解いただければと思いますので、よろしく申し上げます。

色々、私の方から申し上げましたが、それでは教育委員の皆さまからのご意見を伺っていきたいと思います。種田委員からお願いいたします。

#### (種田教育委員)

市長から大変心強いお言葉をいただき、感謝申し上げます。

私からは、幼児教育の現場に携わる立場として、子どもたちの「心のケア」についてお願いさせていただきます。

幼稚園・保育所から小学校へと進学する時期は、子どもたちにとってたださえ大きな環境変化の時期です。さらに、学校統合という今まで地域で見慣れていた小学校では無く、新しい学校に入学することは、新一年生だけでなく全ての学年の子どもたちにとっても心理的に大きな負担になると危惧しております。

お願いしたいことは、児童一人ひとりの不安に寄り添うソフト面での支援です。子どもたちが新しい環境へスムーズに馴染めるよう、心の負担を軽減する取り組みとして環境の変化に戸惑う子どもや保護者が、いつでも気軽に専門的なアドバイスを受けられるよう、スクールカウンセラーの配置をよろしくお願いいたします。

また、特別支援を必要とする子どもたちの増加に伴い、それらの子どもたちは環境の変化によって困り感が増幅するものと思いますので安心して学校生活を送れるよう環境作りと手厚い配慮をお願いします。

保護者の皆様が切実に心配されているのは、緊急時の対応や部活動への送迎といった「通学の負担や安全面」です。少し細かくなりますが、スクールバスの柔軟な運用や、吹雪による休校・遅延対策として運行状況が把握できるアプリの導入により長時間バス停での待ち時間を短縮することができると思います。

冬の北海道特有の視界不良を防ぐスノーポールを設置、徹底した除排雪、街路灯の増設といった通学路の安全対策に、しっかりとした予算を投じてハード面を整えていただきたいと考えております。それと同時にバスの添乗員配置を検討していただきたい。バスの中を動く教室と考え車内でのトラブル回避、体調不良への即時対応、不登校の検証につながると思うので保護者も安心してスクールバスを利用できるようにお願いします。

最後に子どもの小学校への入学を機に札幌圏へ母親と子どもだけが転居する家庭が

増えてきています。統合によって滝川市の学校に入学させたいと思う魅力ある学校づくりをどうぞよろしくをお願いします。

#### (市長)

種田委員の立場としての意見をいただきありがとうございます。

スクールバスは確かに動く教室と思います。添乗員の配置は難しい問題と考えますが別の方法も検討していきます。休校の案内はLINEなどのアプリを利用することも考えていきたいと思います。

魅力ある学校づくりは、保護者と先生の協力によるものと思っておりますのでお願いしていきたいと思います。校舎も新しくなることで子どもたちが楽しく学べる環境を作るハード面については安心していただきたいと思います。

学童クラブの併設を考えていると伺っておりますので、子どもたちの移動の負担も減るのかなと考えております。江部乙地区の子どもたちについては、少ない人数からの環境の変化により心のケアが必要と考えておりますので教育委員会で進めていただければと思います。

ありがとうございます。木曾委員、いかがでしょうか。

#### (木曾教育委員)

予算措置のお言葉ありがとうございます。私がお願いしたいところはまさに江陵中学校の施設整備のことでした。

私からは学校施設の整備について、お願いを申し上げます。

その他の令和13年度に統合対象とならない小学校3校、中学校1校についても、同様に施設の老朽化を心配する声が保護者などから寄せられていますので、そちらの対応もお願いいたします。建て替えや老朽箇所の修繕など、市内すべての子どもたちが安全で快適な環境で学べるよう、必要な予算措置を考えていただきますよう。よろしく申し上げます。

そして、もう一点、スクールバスについて、安全面の議論は避けられませんが、北海道内の他市町村においても一般市民との混乗をしている地域も散見されます。一般市民との混乗を議論のテーブルに載せていただき、ご検討いただきたい、ご検討の余地があるものと考えております。

#### (市長)

学校施設についても頑張ります。

元々開西中学校は、江陵中学校から派生した中学校です。江陵中学校と第一小学校は私が子どものころにできた学校です。本当に古いのでどうかしたい気持ちであります。それが人口の減少に伴い元の形に戻ろうとしているとの見方もあるのかなと考えております。老朽化施設についても、修繕などにより環境を確保していきたいと考えております。

スクールバスの混乗についても、これからの課題と考えております。

砂川も義務教育学校の開校により多くのスクールバスを走らせるとのことですが、運転手不足で業者が困っていると伺っている。スクールバスとの混乗も検討していかなければならないと思います。

江部乙の一部の地域で中央バスの路線がなくなることもあるので、今後検討しなければならない。

現在までは混乗しないという方針で現在のところまで来ている状況ではあるが、考えていかなければならないと感じています。

ありがとうございます。上野委員、いかがでしょうか。

#### **(上野教育委員)**

私からは、江部乙小学校の現状と地域の思いについてお伝えさせていただきます。

現在、江部乙小学校では児童数の減少が進んでおり、日々の授業や運動会などの学校行事にも支障が出始めています。子どもたちが多くの友達を作り、生き生きと活動できる教育環境を整えるためには、統合という選択はやむを得ない時期に来ていると感じております。

しかし、地域の方々からは「小学校がなくなることへの寂しさ」や「地域の衰退」を危惧する切実な声が寄せられています。こうした不安に対してお願いがあり、市長と「江部乙地区の市民と直接対話される懇談会の場」を、ぜひ設けていただきたいと考えております。

最後に、統合にあたっては、閉校となる江部乙小学校が大切にしてきた伝統行事や地域資源を、統合先の学校でもしっかりと継続し、子どもたちの学びに活かしていけるよう、格別のご配慮をお願いします。

スクールバスについては、否が応でも通学時間が多く必要となります。タクシーなども併用しながら小学1年生から3年生程度の低学年の子どもたちだけでも30分以内で登校できるよう通学時間の負担を減らせないかと考えているところですので、ご検討をお

願います。

## (市長)

スクールバスについては、低学年の児童に対してどういった対応が必要かは教育委員会の方で検討を重ねていただきたいと思います。

先ほどの種田委員の話にありました添乗員がいれば低学年の子どもたちの負担軽減につながるのかなと感じるところです。個人の考えとしては、歩いて行けるところに学校があったらいいと思うが、今の少子化の状況ではとても難しくなっています。地域の皆様にとっては、子どもの通学の姿や子どもの声が聞こえるだけでまちのにぎわいを感じるのかと思いますが、それがスクールバスになってしまうとということで申し訳なく思いますが、フォローをしていきたいと思えます。

江部乙の皆さんは地域に対する思い入れがとても強いと感じています。教育委員会のみならず私の方でも機会があれば、そういった場を設定いただければ「江部乙の地域づくり」について懇談させていただきたいと思えます。

なぜ子どもたちがいなくなったら地域づくりができないのか、そこにこだわりを持っているのか、疑問に感じています。子どもがいなくなるわけではありません。そこに住んでいるのです。夕方ですとか休みの日には、子どもたちがその地域に変わらず住んでいるという状況は変わらない。そういう子どもたちとの交流があればいいと感じるのです。今度は江部乙も第一小学校区になると捉えていただいて、特認校のアンケートにもありました体験学習などの参加により今まで以上に子どもたちの賑わいの場を作れる気がしますので、地域の皆さんには考え方を切り替えていただけないかと思えます。

低学年の皆さんは岩橋英遠先生の花見の桜の木の下で遠足ですとか、もう少し高学年の子どもたちは冬のランターンを作成して江部乙駅の前に飾って楽しむですとか、そのようなことによって校区があって、その中に江部乙という地域があるということを皆さんで理解する機会になるのではないかと考えております。地域に学校がなければそれができないということではなく、校区が広がった中で何ができるのかだと思っています。特認校制度と山村留学と混同していると感じるところもあります。山村留学と特認校は違うことを私としてはご理解していただければと思えます。江部乙の地域で特認校を希望する方々とお話をする機会などがありましたら上野委員よろしくお願いたします。

それでは、春田委員、願います。

## (春田教育委員)

これまでの教育委員の話を繰り返すことはいたしません、今後計画を進める上で今回の様々な意見を取り入れていただきたいと思います。

新築した滝川第一小学校へ西小学校そして江部乙小学校そして、将来的に滝川第二小学校が統合を予定しております。校名だけを見ると滝川第一小学校のみが存続され、その他の小学校が閉校となる。滝川に新しい小学校を作るのに学校の名前が滝川第一小学校のままでいいのか。校舎の新築にあわせて、例えば「滝川中央小学校」のような新しい名前を募集してはいかがかという意見や校歌、校章もすべて作り替えるなどの意見もあった中で、滝川第一小学校、滝川第二小学校、第三小学校が東小学校から分離する際の新設校づくりというのも、滝川の小学校として必要なのかもしれないという議論がありました。様々な議論を経て、滝川第一小学校として存続する形になっています。

滝川の新しい小学校として、スタートするに新、真、心、信、親を使ってシン・滝川第一小学校としてもいいのではないかと考えているところです。バージョン2.0ですとか、第一小学校の名前を残しても滝川の新しい小学校への思いを込めたいと考えています。

かつては、滝川は教育のまちとして知られていました。空知管内の教育をけん引していました。空知教育研究所、かつての空知教育研修センターに管内から教員が集まり各地に滝川の教育を拡散していくという滝川がそういった役割を担っている時代があったのです。それにより、優れた教員、人材が滝川に集まるといった時代があったのです。決して単なる回顧主義、昔はよかったという話ではなく、新しい滝川第一小学校が始まるにあたり、今は同時並行で様々な問題が出ている、昔のような一つの課題を解決すれば学校が動くような時代ではありません。いじめ、不登校、学習指導要領の改訂、特別支援教育の充実など新しい課題が出てきます。

統合だから教育委員会・学校に頼むよということではなく、ヒト・モノ・カネ情報などこれらの資源については、教育委員会のリーダーシップのもと5年後を見据えて早い段階から新しい学校づくりに向けた滝川市の全面的なバックアップをお願いしたいと考えています。

#### (前田市長)

昔は教育のまちたきかわという時代がありました。

名前は滝川第一小学校にこだわっているわけではありません。この校名を残すのかどうかというところは、今後教育委員会でご検討いただきたいと思います。新しい学校ができる、新しい教育が始まるということを意識していただきたいと思います。将来的には、滝川第二小学校も来る予定となっています。さらに将来的には、滝川において小学校2校、中

学校1校というのが2040年の人口規模、推計から見ると最終的な形になるのかなと考えています。これは個人的な考えとして持っています。もちろん、移住定住に力を入れて進めていく所存です。

様々な制度を活用しながらとはなりますが、予算措置については、節約することなく、限りはございますが対応してまいります。

先生方が頑張れる環境づくりを頑張っていきたい。教育のまちたきかわへの復活には至らないかもしれないが、できることはしていきたいと思います。

また、校舎の跡地利用についてですが、開西中学校については先日報道発表させていただいております。西小学校の給食室だけが残ります。西地区の方は跡地活用を気にされています。そこに対してこうしますと伝えながら進めていきたいと思います。

開西中学校については、駅前で予定していた複合施設をそっくりそのまま、開西中学校に持っていきたいと考えているところです。駅前で考えていたホールと開西中学校の体育館が同じ大きさとなっています。開西中学校の方が新しいが、通学者数や居住者数の関係で江陵中学校への統合となりました。開西中学校はグラウンドも広いため、駐車場にしたら多くの駐車ができると考えています。グラウンドを活用できれば車で避難する方々の避難所にもできる。開西中学校については、校舎も広大なので、文化施設を複合化できないかと考えているところです。他にも生涯学習センターも移管できないかと考えているところです。

今後も教育委員会や文化連盟と相談させてもらいながら頑張っていきます。

滝川市は財政力指数が空知で一番となっており、岩見沢にも負けていないというところまでできています。

東栄小学校の跡地もあり、百年記念塔も壊さなければいけない、同様の建物が多くある中で、校舎の跡地活用についても検討を重ねて参ります。

#### 4. その他

##### (市長)

その他、教育委員の皆様から、何かありますか。

なければ進行を事務局に返します。

##### (総務部次長)

本会議につきましては、毎年定例的に開催させていただいております。来年度につきましても、教育委員会とテーマについてご相談させていただきながら、同様に開催させていただければと思います。

本日の議事録につきましては、事務局と教育委員会で整理し公表させていただきます。

## 5. 閉 会

(総務部次長)

以上をもちまして、令和7年度第1回総合教育会議を終了いたします。